レッスン：16"A"

テーマ：エレメンタル

ELEM16A.EN/AEN/DOC

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火から生じた子供たちよ。私たちは常に神、絶対、神の聖性の中に包まれています。

　　 このレッスンでは、想念フォーム（想念の形）であるエレメンタルが形成される際の、スーパーサブスタンスとしてのマインドの使用について考察してみましょう。

　　一般にエレメンタルには２つのフォーム（形）がありますが、大体において同じ一般的構造をしています。エレメンタルには目的が必要であり、また投射と生命が必要です。

　　エレメンタルの２つのフォームとは欲望的想念と想念的欲望です。想念的欲望のエレメンタルは投射と生命として想念があり、体（body)として欲望があります。欲望的想念のエレメンタルは体として欲望があり、そのようなものとして投射と生命として強烈な欲望があり、それと関連した想念があります。大抵の場合、欲望的想念のエレメンタルにおいては正しい想念の割合は少なくなっています。

　　欲望的想念のエレメンタルは強烈な欲望と執着または波動、感情的な興奮などの影響下にある人間によって作りだされます。

このタイプのエレメンタルを伴う想念の中で最も支配的なのは、この欲望を満たすための方法と手段を見出すというものです。これらのエレメンタルをイエス・キリストは、唖でつんぼと呼んでいます。

　　想念的欲望のエレメンタルは意識的に作られ、それらは最も強力で長持ちし、私たちは常にそのようなエレメンタルを作るようにすべきです。真理の探究者は想念的欲望のエレメンタルを作ることを心掛け、特にそれらを意識的に創造すべきです。

　　それでは次に、どのようにして、いつ、それらのエレメンタルは意識的にあるいは無意識的に作られるのか見てみましょう。

　　人間は五感を通じて自分のいる環境の中で認識し、その人が何かに心を引かれると、それに対する欲求を満たそうとする欲望で振動し始めます。さて、もしこの欲望が思考によってチェックされない場合、欲望は非常に強くなって強迫観念のようになります。パーソナリティーのセルフ・エピグノーシス全体が集中的に、この強迫的観念を満たす方法と手段を考えることに向けられます。

　　ひとたびこの強迫的観念がフォーム、形を帯びると、結果として満たすべき情熱的な欲求となります。この欲望的想念のフォームを満たすために利用可能な手段が限られていると、そのパーソナリティーはその欲求を満たすためにいかなる手段でも利用するようになります。社会的および倫理的に認められないような手段をも使用するようになります。

そのパーソナリティーは他の人間を搾取したり、盗んだり、嘘をついたり、さらには殺人まで犯すようになります。

そのような絶望的行為の理由は、欲望的想念のフォームが投射と生命として強烈な欲望を持ち、それと比較して想念が非常に僅かなのです。

　　このような種類の欲望的想念は本当の強迫観念となる可能性があり、その結果そのパーソナリティーに影響を及ぼし、思考という聖なる贈り物を使用することが不可能となるのです。それらの強迫観念は本当の暴君となり、それらを生み出した本人のみならず、一般にその周囲の人々全て、そして多くの場合にはその特定の人間がいる環境全体に大きな苦しみをもたらします。

Page2

 欲望的想念のエレメンタルあるいは想念的欲望のエレメンタルは、それが作られる時には全く同じ仕方で同じサブスタンスを使用します。最初に、パーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスは五感を通じて周囲の様々なものに気づき、認識するようになります。そして、特定のものに集中し始めるようになり、その現在のパーソナリティーにとってそれは魅力、欲求、願望、情熱となります。

 その結果、パーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスは、両眼の間の鼻の上付近で微小な像を形成するようになります。この微小な像の中で、パーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスは極めて快適に創造し、欲求し、魅せられ、最終的にこの像をノエティカル体、サイキカル体、肉体のそれぞれのエーテル体を通じて、ノエティカル界、サイキカル界、そして物質界のエーテル部分へと三重に放出するようになります。

 一度それが三重に放出され、その人から離れると、その像は普通のサイズになります。例えば、もしその像が家であれば、それは家としての一般的なサイズとなり、もし船であれば、一般的な船のサイズとなります。

　　このようにして、フォームが何であれあらゆるエレメンタルは生命を帯びるようになります。私たちの環境、町、社会が影響を受け、絶えず変化しているのは、これらの欲望的想念と想念的欲望のエレメンタルによるものなのではないでしょうか。

人間が深く考え、原始的状態から抜け出す過程を促進したり、遅らせたりするような様々なエレメンタルを形成するのは、様々なフォームのエレメンタルを築くからではないでしょうか。短時間で世界中に行けるような交通手段を発明することができたのは、これらのエレメンタルによるのではないでしょうか。人間が電話やマスメディアを通じて事実上地球のあらゆる場所にアクセスするようになったのは、これらのエレメンタルによるのではないでしょうか。

　　人間が友人、隣人、そして周囲の社会を受け入れることによって、自分の家族だけに関心を向けていた状態から成長したのと同様に、それ（エレメンタル）は人間がナショナリズムというエゴ的状態を徐々に脱出して全地球的状態に達するための助けになるのではないでしょうか。

　　物質の中で、それに対応するエレメンタルを通じて作られたもっとも精妙な宇宙飛行機器を含め、現在この物質界に存在するもの全ては、鼻の付け根（両眼の間）においてその生命がスタートしたのです。

　　現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスとしての人間は、その人の欲望的想念と想念的欲望のエレメンタルの総体であり、それらのエレメンタルはその人が投射し、その人に戻ってきたものであり、その人の部分なのです。それらはその人の部分なのです。

現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスに属するだけでなく、この地球上でアダムあるいはイブとしてその人がスタートした瞬間以降のその人の部分なのです。

　　このようにして人間は、自分の現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスを、ノエティカル界のサブスタンス、サイキカル界の超物質、そしてエーテル物質から自分が投射した欲望的想念と想念的欲望のエレメンタルによって築くのです。

私たちはLifeの現象の全ての諸世界においてこれらのエレメンタルと出会うことになるのです。

これらのエレメンタルは二極の諸世界、時間・空間の意味の諸世界で見出されます。

空間と関連する時間は、エレメンタルの生成、投射、そして成就におけるファクターです。

　　これらのエレメンタルの寿命と強さは、それらを活性化する欲望の強さによります；それらに魂を吹き込む、あるいは想念がそれらを活気づけると言うことはできません。なぜなら、それらは生命の現象の投射だからです。しかし、そのような生命にはその中にロゴス的なものを一切ありません。

　　しかし、エレメンタルを投射する人間が、マインドを十分にそして意識的に使用することができるなら、それらのエレメンタルは論理と正しい思考を持つことができます。

しかし、物質界、サイキカル界、そしてノエティカル界のエーテル・ダブルの中で見られるエレメンタルにはある種の限界ある生命がありますが、

それらはサイコノエティカル界の中で投射されて独立的に存在しているわけではありません。なぜなら、無知の状態にある人間は、活性化されたサイコノエティカルな存在を投射することができないからです。

Page3

 　最も正しく考える人間によって生成されたものさえも含め、全てのエレメンタルの中には、私たちが運動、感覚、刻印と呼ぶ各エーテル特質がありますが、創造エーテルの特質はありません。創造エーテルは聖霊の聖なるブレーシス（神の意志）を通じて、アークエンジェル（大天使）および天使たちによって投射されます。

　　人間はかって創造エーテルのパワーを持っていたこともありますが、自分たちの戦いにおいてそれを著しく悪用したために、取り上げられてしまったのです。それらが想念的欲望フォームであれ欲望的想念フォームであれ、あるいはそれらがノエティカル界、サイキカル界あるいは物質界のものであろうとも、今日の人間が、自分が作ったエレメンタルに創造エーテルを付与することができないのは幸いなことです。

　人間はほんの少し想像力を働かせて、自分がLifeの現象の諸世界において生み出す長期間生き続ける怪物について認識する必要があります。

創造エーテルを奪われているのはある意味で祝福されるべきこととみなすべきです。

　　パーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスとして、人間は意識的、無意識的、そして超意識的にエレメンタルを投射すると述べました。

現在のパーソーナリティーの３つの体をマスターできるようになり、５つの超感覚を通じて表現できるようになった時、パーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスは超意識的にエレメンタルを投射できるようになります。その時初めて、パーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスは欲望的想念ではなくて想念的欲望のエレメンタルを投射するようになるのです。

パーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスは主にノエティカルにおいて、サイキカルにおいて、そして物質界のエーテル・ダブルにおいて投射します。

　　私たちのHoly Monad Spirit Being（聖なるモナドのスピリット存在）は何を投射するのでしょうか？それはLifeそれ自体(Life Itself)を投射し、そこにはLife、および創造エーテルを含め全てのエーテルが付与されており、完全で美しい投射です。それは私たちが魂のセルフ・エピグノーシスと呼ぶ投射です。それは私たちのHoly Monad Spirit Being（聖なるモナドのスピリット存在）が人間のイデアを通じて行う唯一の投射です。

　　パーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスが欲望的想念および想念的欲望のエレメンタルを送ると、その人は物質界におけるエーテル・ダブル、サイキカル界のエーテル・ダブル、そしてノエティカル界のエーテル・ダブルへと三重に送ります。同時に、魂のセルフ・エピグノーシスは同じ問題に関して輝きを送り、パーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスが潜在意識的に比較できるようにします。

パーソナリティーとしての人間がいずれのフォームであれエレメンタルを投射する際には常に、魂のセルフ・エピグノーシスがその隣で、法則、調和、バランスという完全なイメージを投射し、それらを投射されたエレメンタルの上に重ねるようにします。

もしそうでなければ、パーソナリティーのセルフ・エピグノーシスとしての人間は、自分が創造した混乱の海…（それは主に欲望的想念によるもので、人間を魅惑し、抑圧し、疲労させる）…の中で自分自身を見失ってしまいます。

　　人間には自由意志があり、無分別にエレメンタルを投射します。

しかし、魂のセルフ・エピグノーシスは法則それ自体と同調している何か、完全な理念を投射します。魂のセルフ・エピグノーシスによるこの行為が、現在のパーソナリティーに必要な何かを訴え、初めは無意識に、そして後には完全となるために比較することによって、**正しい思考を通じて意識的に働きかけます**。

これは今生だけについて述べているのではありません。**既に述べたように、時間・空間内で創造し、投射したエレメンタルの総計がその人なのです。**

同様に、創造界にある全ての諸世界と諸宇宙は人間だけでなく、天使たち、指揮をする天使たち、アークエンジェルたち、そして聖霊によって投射されたエレメンタルの総計なのです。ロゴスはエレメンタルを投射しません。ロゴスはその本質を、愛・生・法則・真理・光としてのそのLifeを放射します。

　Page4

 これらのエレメンタルの寿命は非常に長期にわたることもあります。過去に様々な国…例えばエジプト、カルデア（＊チグリス・ユーフラテス川流域のバビロニア地方）、アッシリア（＊南西アジアの古国）…によって意識的に作られたエレメンタルもあります。これらのエレメンタルたちは投射された後、何千年間も人間に影響を及ぼすことができ、その特定の目的あるいはポイントに自らを集中させます。昔の国々のいろいろな神々は、それらを信仰した人々によって創造されたエレメンタルの総体だと考えることはできないでしょうか？

 それらのエレメンタルの寿命は永遠ではなく、セルフ・エピグノーシスも付与されていませんが、生命の意識のフォームを有しています。歴史の中で人間によって創造された様々な神々は、存在しなかったと見なさないでください。それらは存在し、今でも存在しています。それらの寿命は、それらに向けられるエネルギーと注意によります。

 創造されたエレメンタルは決して失われることはありません。実際に働きかけて影響を与えるようなパワーは抑えられているかもしれませんが、永劫の時の流れの中でパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスとしての人間、または天使、自然霊、指揮をする天使または大天使たちによって創造されたエレメンタルは今日でも存在しています。

それらのエネルギーは抑えられていても、それらは汎宇宙的記憶、地球的記憶、太陽エネルギーその他における刻印エーテルを通じて残っているのです。

 エレメンタルの創造を常に何か悪いものだと見なしてはいけません。私たちはその重要性を認識して、その創造には特別な注意を払う必要があります。

まず、私たちが創造するものについて深く責任を感じるようにし、スーパーサブスタンス、サブスタンス、超物質、物質としてのマインドを使用し、創造し、それらの想念の像を投射することに責任と注意を払うのです。

**私たちの好き嫌いにかかわらず、最終的には自分が創造したものの責任を取ることになるのです。**

私たちには進化の道において２つの選択があります。ロゴスが道、真理、生命として指し示してくれた道があり、それは正しい思考、知識、献身、観察による道です。それは「真理は私たちを無知による束縛から解放する」という真理を知ることによる道です。

 他方、もう一つの道は濫用の道であり、コントロールされていない欲望的想念が投射され、それは最終的に私たちを強迫観念と習癖という形で束縛するようになります。これらは私たちの人生における暴君、悪夢であり、自らが生み出した悪魔なのです。それらはパワーを持っており、最初は魅惑、魅力という外観を装っていますが、次第に運命のムチのようになって私たちを揺さぶるようになるのです。それも道ですが、苦痛と涙の道です。

　　真理の探究者として私たちは今、意識的に道を選択する知識を持っています。それは私たちが願うほど魅力的ではないかもしれませんが、最終的には私たちを醜いアヒルの子から美しい白鳥へと変容させてくれるのです。私たちは今や自分自身の人生の指揮者であり、オーケストラをメロディー豊かでハーモニーに富んだものにするのは私たち次第なのです。

私たちは神、絶対、神の聖性の中に抱かれています。

EREVNA ELEM16/AEN

 16A/4/END